

ある町の天気相談所

Vol.22
2019.10.4

令和元年10月号



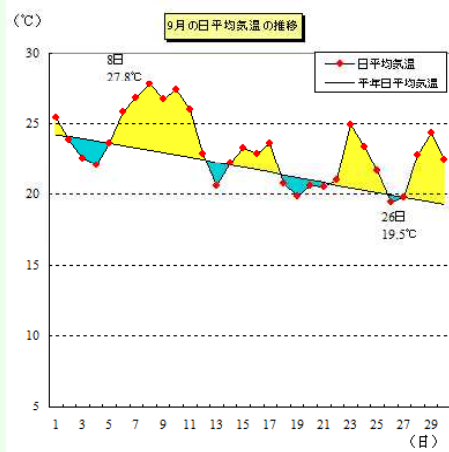
9月の台風

9月は、台風第15号が8日から9日に、熱帯低気圧が15日から16日に、それぞれ関東地方を通り、台風第17号が22日から23日に日本海を進むなど、毎週日曜日から月曜日にかけて、茨城県に影響を与えました。これは、太平洋高気圧の日本の南への張り出しが弱まった時に、ちょうど台風などが進んでくるなど、タイミングがあったためでした。熱帯低気圧と台風第17号は、大きな影響はありませんでしたが、台風第15号は伊豆諸島や神奈川県、千葉県などに、風や波による停電や倒壊などの被害をもたらしました。日立市内でも風が強くなり、市役所で9日の朝に最大瞬間風速30・6メートルを観測し、市内でも、停電や倒木が相次ぎました。

9月の気候

9月は、台風や低気圧の影響で、雨が降る日も多く、降水量は183ミリと、平年並みでした。気温の変化も大きく、熱帯夜が1日、真夏日が5日ありましたが、最高気温が20度を下回る日もありました。

9月の平均気温は23・2度と平年よりかなり高く、日照時間は152・7時間と平年並となりました。



1カ月予報 (気象庁発表)

10月は、天気数が数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響で、中旬は平年に比べ晴れの日が少ない予想です。気温は「高く」特に前半は「かなり高く」、降水量や日照時間は「ほぼ平年並み」の予想です。

天気相談所のあゆみ

天気相談所の1日 (朝②)

ホームページに天気予報の掲載が完了するとちょうど「観測」の時間となります。屋上に向かい、目視の観測を行います (観測については次号で紹介します) 平日は2人で業務を行っていますため、観測は予報を行っている者が行います。休日は一人ですべて行っています。目視の観測、気温などの機器による観測結果は、予報観測日誌に記載していきます。朝9時の観測結果は、水戸地方気象台へ電話で報告しています。この報告は「通報」といい、観測結果を決まった方法で数字に置き換えたものを伝えます。数字に置き換えるのは、昔のモールス信号などで送受信していた頃の名残でもありますし、コンピュータなどで扱いやすいからでもあります。全世界の観測結果は、数値に置き換えて公開されており、天気図の作成や数値予報の資料に活用されています。観測は、天気予報において最も重要なものです。市役所の観測結果は、これとは別に、天気相談所のホームページに掲載しています。

天気に用いる基礎知識

気温の言葉3

最高気温が30℃を超えた日を「真夏日」といいます。市役所における真夏日は、6月から9月に観測され、最も早い記録は4月29日 (2005年)、最も遅い記録は、10月12日 (1999年) となっています。真夏日は、年間に23日ほど観測され、最も多い年は47日、少ない年は4日です。また、20日間連続で真夏日を観測した年もありました。

神峰の山から

8月から、日立市公式地域情報アプリ「ひたちナビ」がはじまりました。この中でも天気相談所は天気予報を掲載しています。トップ画面では、天気マークを使って、天気予報をお知らせし、画面をタップすると、詳細の文字情報にリンクするようになっていきます。また、天気予報を更新するとプッシュ通知でお知らせもします。アプリにはアンケートや写真の投稿機能もあるため、天気相談所でもこの機能を使い、積雪や季節の話題などを投稿してもらえようなことも検討中です。ぜひ、アプリも御利用ください。まだ、慣れていないため新機能はもう少しお待ちください。